

第7回稲沢市観光基本計画策定委員会 会議録

【日 時】平成30年1月30日（火）午後2時～午後4時

【場 所】稲沢市役所本庁舎3階 議員総会室

【出席者】稲沢市観光基本計画策定委員会委員（敬称略）

大澤 健	和歌山大学経済学部教授
栗林芳彦	名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授 ・地域連携センター長
鈴木 隆	一般社団法人愛知県観光協会専務理事兼事務局長
古川正美	稲沢市観光協会事務局長
服部正見	稲沢商工会議所理事兼事務局長
山田 洋	祖父江町商工会事務局長
野村 修	平和町商工会事務局長
安藤之一	名古屋鉄道株式会社国府宮駅長
林 和伸	善光寺東海別院副住職
伊藤哲浩	愛知県振興部観光局観光振興課長
岩間福幸	稲沢市経済環境部長
遠藤秀樹	稲沢市教育委員会教育部長
大野邦子	稲沢市観光協会ボランティア・稲沢市ふるさとガイドの会
橋本昌博	株式会社国分農園代表取締役
高村宗克	特定非営利活動法人ネイヴル理事長
水谷光宏	株式会社水谷建設代表取締役（平和町商工会副会長）
【事務局】 渡會竜二	経済環境部調整監
澤田雄一	商工観光課長
久留宮庸和	商工観光課主幹
大屋 将	商工観光課主任

【議事次第】

- 1 委員長あいさつ
- 2 協議事項
 - (1) パブリックコメント実施結果について
 - (2) 稲沢市観光まちづくりビジョン（案）について
 - (3) その他
- 3 その他

【会議の概要】

[事務局]

皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から第7回稲沢市観光基本計画策定委員会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。私は

この会議の進行を務めます、経済環境部商工観光課長の澤田雄一です。よろしくお願いいたします。

始めに、会議の開催に当たり大澤委員長からごあいさつを頂戴したいと思います。

1 委員長あいさつ

[委員長]

皆様こんにちは。本日は寒い中、ご出席いただきありがとうございます。本日の策定委員会では、市民の皆様から貴重なご意見をいただいたパブリックコメントの実施結果の報告を受けるとともに、稲沢市観光まちづくりビジョンの検討に一区切りを付けることになっています。2月14日（水）にも策定委員会が予定されていますが、この会議ではビジョン最終案を総括し、来年度に向けた推進体制づくりの検討を進めていきたいと思っております。今が1年で一番寒い時期ですが、これから春に向けて暖くなるのに合わせて、本ビジョンも出来上がります。これからの稲沢市の観光に向けて、委員の皆様からの忌憚のないご意見をいただきたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

[事務局]

ありがとうございました。次に3点、ご報告とお願いをさせていただきます。

初めに本日の会議ですが、松田雅之委員及び塩治康人委員から欠席のご連絡をいただいておりますことをご報告いたします。

2点目として、本日の策定委員会には、稲沢市観光基本計画の策定に当たり業務支援をいただいております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所様に引き続き事務局の補助として同席いただいておりますので、よろしくお願いいたします。

3点目として、本日は会場が広くなっておりますので、ご発言いただく際はマイクをお使いいただきますようご協力をお願いいたします。

それでは、これより議事に移らせていただきます。本日の協議事項は、お手元のレジメに記載のとおり、「パブリックコメントの実施結果について」、「稲沢市観光まちづくりビジョン（案）について」、「その他」の3点となります。

本日委員の皆様からいただくご意見を反映した形で、ビジョン最終案を取りまとめていきたいと考えています。限られた時間ではございますが、ご審議賜りますようお願いいたします。会議の議事進行につきましては、本委員会の設置要綱の規定により、委員長が務めることになっておりますので、以後の会議の取り回しにつきましては、大澤委員長にお願いいたします。

2 協議事項

(1) パブリックコメントの実施結果について

(2) 稲沢市観光まちづくりビジョン（案）について

[委員長]

これより議事に入ります。

最初に協議事項（1）パブリックコメントの実施結果について 及び 協議事項（2）稲沢市観光まちづくりビジョン（案）について、事務局から一括して説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料1「稲沢市観光まちづくりビジョン（案）パブリックコメントの実施結果について」、資料2「稲沢市観光まちづくりビジョン（案）」及び参考資料「稲沢市観光まちづくりビジョン（案）新旧対照表」に基づき説明】

[委員長]

事務局からの説明が終わりました。ご意見やご質問等がある委員は挙手をして発言をお願いします。

[委員]

資料2の57ページにSWOT分析が掲載されていますが、Sの欄の「Strength」だけ単数形なので、複数形の「Strengths」に修正をお願いします。

[事務局]

ご指摘のとおり修正いたします。

[委員長]

パブリックコメントでは、市民の皆さんから非常に熱心なご意見が寄せられたと感じています。その中で、資料1のNo.3のように「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボが諮問会議のような組織ならば、結局視野が狭くて声の大きい人が影響力を持つことになり、マイナス面が大きい」という、かなり戒めに近い意見もいただきました。この意見を踏まえて、本ビジョンの中でラボのイメージが市民に正確に伝わるような記載をしておく必要があると感じました。その意味で、資料2の8ページからの「第3章 重点アクションプラン」の書きぶりが非常に大事になってくると思います。基本的な点を確認しますが、計画書の仕上がりはカラー刷りですか。

[事務局]

一部がカラー刷りになります。

[委員長]

8ページから10ページにかけて部分がカラフルになると読みやすいと思いますので、少し工夫をお願いします。

第3章「重点アクションプラン」ですが、重点と言う割には記述が短いと感じます。また、この章には「stage1」はあるのですが、「stage2」がありません。おそらく他の章と構成を合わせた結果だと思いますが、今の書き方だと目次に「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボ」の言葉が出てきません。この章の頭に重点アクションプランとして「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボの立ち上げと推進」を持ってきて、この言葉が目次にもタイトルとして掲載されるようにした上で、後段にラボの意味を記載する形にしてはどうでしょうか。今のままだと何を強調したいのかが分かりにくく、バランスがあまり良くない印象を受けます。ここの書き方を修正することは可能でしょうか。

[事務局]

対応は可能ですので、ご意見を踏まえて修正いたします。

[委員長]

第3章の冒頭で「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボ」という言葉を表示すれば、これが「重点アクションプラン」だということが分かりやすくなると思います。「『(仮称) いなざわ観光まちづくりラボの立ち上げと推進』が重点アクションプランである」と一目で分かるような構成にしていきたいと思います。

もう1点、「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボのイメージを市民にどのような形で伝えていくか」を考えた場合、資料1のNo.3の「市の考え方」で書かれている「実践組織」という言葉が分かりやすく伝えるための鍵になると思います。「実践」「市民の主体的な活動の場」「協働」という言葉をしっかりと入れた上で、これらが伝わるようにラボのイメージを掲載していくと良いのではないかと考えます。

事務局に確認ですが、ラボのイメージは今申し上げたような捉え方で良いのでしょうか。

[事務局]

事務局も同じイメージで考えています。

[委員長]

それでは、第3章「重点アクションプラン」における「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボ」の説明箇所に「実践」「市民の主体的な活動の場」「協働」のキーワードを入れた形で修正をお願いします。

もう1点、パブリックコメントの結果を見て、「なぜ稲沢市で観光なのか」という疑問を持つ市民が依然として多い印象を受けました。そのため、市民が「稲沢市の目指す観光」をイメージしやすいように、「観光」に「交流」を織り交ぜた「観光・交流」という言葉を使っていくことも必要ではないかと思いました。資料1のNo.3「市の考え方」の2行目に「観光まちづくりを担う多様な人材が有機的につながり、着地型観光メニューや新たな観光事業の推進を図るための実践組織となります」と書かれていますが、ここも引っ掛かる部分です。この書き方を「新たな観光・交流事業や着地型観光メニューの推進を図るため」という感じで、「着地型観光メニュー」から書くのではなく、「新たな観光・交流事業を推進していくこと」を先に書いて強調したほうが市民も理解しやすいのではないかと思いました。「観光」に対するイメージは人によってそれぞれ違います。私たち委員は最初の会議で市から「観光まちづくり」の考え方について説明を受けていますので、従来型の観光との違いが理解できていますが、市民は「稲沢市が目指す観光」のイメージを未だ持っていないのが現状だと思います。そのため、「観光」という言葉を「観光・交流」に置き換えて、分かりやすく伝えていくことが必要だと考えます。

「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボ」の一番の目的は、「市民が主体的に活動することによって、多様な交流機会を生み出していくこと」なので、「観光・交流」という言葉を必要に応じて使い、「交流機会を増やしていくこと」を全面に出して説明していくことが必要だと思います。全体を通じて「市民の主体的な活動を引き起こしていくこと」と「行政と観光協会が市民と協働

することによって、多様な交流機会を増やしていくこと」がラボの機能であるというニュアンスで書けば、市民にも伝わるのではないのでしょうか。

[事務局]

ありがとうございました。ご意見を踏まえ、必要な箇所の文言を「観光・交流」に修正いたします。

[委員]

今の話の続きで、資料2の8ページ、重点アクションプラン「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボの立ち上げと推進」の部分の4行目に「稲沢市観光協会を中心としながら」とありますが、この表現が気になります。

[委員長]

どのような点が気になりますか。

[委員]

アクションプラン検討会議の中で4つのプロジェクトが立ち上がり、現在チームに分かれて検討作業を行っています。その中に観光協会の職員が一人でも入って意見を言う立場であれば理解できるのですが、そうしたことはありませんので、「中心」という表現には違和感を覚えます。ここに書かれている表現を見ると、ラボという組織が観光協会から補助金をもらったり、お伺いを立てながら活動を進めていくようなイメージを持ってしまいます。

[委員長]

委員が懸念されていることは十分にあり得る話です。「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボ」は、「行政主導」や「観光協会にお任せ」といった組織にならないようにしなくてはなりません。「市民や関係機関・団体」を前に出して、これらと「稲沢市観光協会が協働しながら」という表現に修正してはどうでしょうか。

[委員]

ラボに参加する側からすれば、そのほうが良いと思います。

[委員長]

それでは、この部分の表現を「市民、関係機関・団体と稲沢市観光協会、行政等が協働しながら」に修正しても良いのでしょうか。ラボに対する観光協会の責務を強調したいのであれば、今の表現のほうが良いかもしれませんが。

[事務局]

「稲沢市観光協会を中心としながら」という表現にした理由は、観光協会がラボの事務局となり、観光まちづくりの推進に向けた取りまとめ役として中心的な役割を果たす存在であることを

伝えなかったからです。「市民、関係機関・団体と稲沢市観光協会、行政等が協働しながら」という表現にすることで、観光協会の中心性が弱くなることを懸念します。

[委員長]

今の事務局からの回答について、ご意見はありませんか。

[委員]

この表現を見て、今までアクションプラン検討会議で活動してきたことと少し違う感覚を持ちました。

[委員長]

この場で表現を決めてしまっていていいと思います。市に意図があるにせよ、「この表現では市民に本来の趣旨が伝わらない」ということであれば、修正する方向で話を進めても良いと思います。アクションプラン検討会議のメンバーを兼務されている委員の皆さんはどのようにお考えですか。

[委員]

アクションプラン検討会議は、観光協会が中心の組織ではありませんでした。

[委員]

確かにアクションプラン検討会議は観光協会が中心となった組織ではありませんでしたが、今後「(仮称)いなざわ観光まちづくりラボ」に移行する際には、ある程度基盤がしっかりした組織を中心に構築していく必要があるため、その部分を「観光協会が担う」という理解をしています。

[委員長]

この重点アクションプランは市民に向けて書くものです。「観光協会を中心としながら」という表現が市民に誤解を招きやすいのであれば、表現を弱めることも必要だと思います。観光協会が「ハブ」になるようなイメージだと良くありません。行政が取りまとめ役になると、「行政と各主体は繋がるが、主体同士は繋がらない」というケースがよくあります。「観光協会が中心」と見られてしまうと、「観光協会と各主体が個々に繋がっているだけ」というイメージになってしまい、ラボの本来の趣旨から離れてしまう気がします。「観光協会が取りまとめ役をやりながら」というニュアンスに変えてみてはどうでしょうか。

[事務局]

意味合いとしては、観光協会が事務局的な位置付けで取りまとめ役を担う形になります。ラボは未だ組織として存在していませんので、立ち上げの際には中心となる立場の団体が必要となります。その役割をスタートの段階で観光協会に担ってほしいという思いから「観光協会を中心としながら」という表現を使ったものです。委員長がおっしゃられた「取りまとめ役」と意味合いは同じになりますが、上手く表現することが出来ず、このような文章となりました。

[委員長]

「観光協会が推進のエンジンになってほしい」ということですので、そのニュアンスが伝わるような文章に修正していただければと思います。

[委員]

今の表現のままでは、観光まちづくりを進めていく上でラボと観光協会のどちらが中心になるのかが読み取りにくい印象を受けます。

[委員]

観光協会自体がプレイヤーになる訳ではないと理解しています。表現が正しいかは分かりませんが、「プレイヤーとなる市民や関係機関・団体等」と「それを下支える観光協会」という表現が分かりやすいのではないかと思います。

[委員長]

行政の文章としては馴染まないかもしれませんが、「観光協会を取りまとめ役としながら」としたほうがより正確にニュアンスが伝わるのではないかと思います。今委員が言われたとおり「観光協会が主役ではない」、「観光協会はプレイヤーではない」というニュアンスが伝わるように表現を工夫していただくようお願いします。

[委員]

資料2の11ページ以降に掲載されている各アクションプランの「主な取り組み」を見ると、「主な実施主体」として「市」と「市観光協会」が中心になっています。16ページ以降の具体的なメニュー造成の部分から他の実施主体も加わってくることを考えれば、「中心である」とか「取りまとめ役である」とか、「実施主体である」とか「下支えをする組織」であるとか表現方法はいろいろありますが、観光協会が中核的な役割を果たすことに疑義は無いと思います。先ほども発言があったように、実際に取り組みを実施していくことになると予算的、金銭的な問題が必ず出てきますので、責任を持つ主体が必要になります。計画づくりの段階では皆で意見を出し合う形で良いのですが、実践の中核部隊をラボが担うのであれば、「中心はどこなのか」といった記載はあったほうが良いと思います。

[委員長]

実施の主体になるのは、あくまで「市民」だと私は理解しています。観光協会はプレイヤーではありませんので、実施に当たっては市民の力が最大限に生かされないといけません。ただし、委員が言われたとおり、予算であるとか、事務局機能は絶対必要になりますので、行政がある程度バックアップしていくことが必要です。「中心」のイメージはこれから作っていくことになりますので、最初の段階では誤解を避けるため、また市民にイメージが正確に伝わるように「中心という言葉はあまり使わないほうが良い」というのが私の印象です。

[委員]

資料2の9ページに「ラボのイメージ図」がありますが、この図と8ページの文章表記が合わないので、違和感があるのかもしれませんが。「ラボで取り組んでいくこと」と「ラボにおける観光協会の役割」を分けて書いたほうが理解しやすいのではないのでしょうか。

[委員長]

皆様からご意見をいただきましたので、この場で「観光協会の役割」について合意形成をしておきたいと思えます。「ラボにおける観光協会の役割」は「市民の力を引き出し、市民を繋いでいき、主体的な活動の気運を盛り上げていくこと」であり、「稲沢市の観光まちづくりが持続的になるように、観光協会はその役割をしっかりと果たしていく」ということで良いのでしょうか。そのイメージは共有できているのでしょうか。市としてもそのようなイメージでしょうか。

[事務局]

はい、市もそのようなイメージで捉えています。

[委員長]

それでは、先ほど委員から意見があったとおり、観光協会のイメージがぶれないように「市民の主体的な活動を継続させていくため、観光協会がしっかりと支援していく」というニュアンスの文章を一文入れていただきたいと思えます。また、「ラボのイメージ図」の中にも「観光協会の役割」を一行入れていただく形で良いのでしょうか。

[事務局]

「ラボにおける観光協会の役割を明記してはどうか」とのご意見をいただきましたが、12ページのアクションプラン3「観光協会の組織・機能強化」の事業概要の中に記載した部分があります。再掲という形になるかもしれませんが、この部分を整理した上で、重点アクションプランの中にも2行程度の文章を追加したいと思えます。

[委員長]

事務局から説明があったとおり、アクションプラン3「観光協会の組織・機能強化」の事業概要の2段落目に「ラボと観光協会の関係」について書かれた良い文章があります。この文章に「市民の主体的な活動を支えていく」というニュアンスの言葉を絡めて書くと、市民にも誤解が生じないと思えます。再掲でも構いませんので、重点アクションプランの中にも書き加えていただきたいと思えます。

[委員]

資料1の関係でお聞きしますが、パブリックコメントの各意見に対する「市の考え方」はこれからホームページに掲載する形になるのでしょうか。

[事務局]

策定委員会です承をいただいた後、ホームページで公表するスケジュールになっています。

[委員]

分かりました。「市の考え方」は全体的にとっても丁寧に作成されていると思います。意見提出者数が「3人」ということですが、どの意見も公表した計画案をしっかりと読み込んだ上で提出された意味のあるものだと思っています。その一方で、あくまで「3人」ですので、これらの意見が統計的に言って「必ずしも広く市民の意見を反映したものではない」という前提で理解することが大事だと思っています。これらを踏まえて、一部の書きぶりについて「こうしたほうがより良いのではないか」という提案を申し上げます。

まず、資料1の14ページ、No.35の意見の1行目に「抽象的な表現が多く、実現性が疑われる」とあり、4行目に「この手の計画書の典型で、責任逃れに見えてしまう」とあります。それに対する市の回答として、5行目に「各主体がバラバラの方向を向いて取り組んでいては」と書かれていますが、ここは「バラバラ」ではなく、「各主体が個別の方向を向いて取り組んでいては」と修正してはいかがでしょうか。

また、8行目に「各主体が同じ方向を向き、目標の達成に向けて協働で取り組んでいく」とありますが、先ほども話があったように、ラボが「皆で意見を言い合い、主体的に集まって協働していく場」であることを考えれば、「各主体が同じ方向を向き」というよりも「各主体が（本ビジョンで示された）共通の目標の達成に向けて協働で取り組んでいく」としたほうが分かりやすいのではないかと思います。

また、11行目に「そのための媒体となる組織として『(仮称)いなざわ観光まちづくりラボ』を来年度立ち上げるものです」とあり、14行目に「このラボの取り組みを推進する中で、具体的な観光事業の企画立案と実践を積み重ねていきたいと考えます」とありますが、この部分を「このラボは実践的組織であり、ラボの取り組みを通じて具体的な観光事業の企画立案と実施を積み重ねていきたいと考えます」と修正してはいかがでしょうか。

パブリックコメントの実施結果を見て、ラボのイメージがとても大事だと思いました。ラボとは「皆がそれぞれの立場で自由に発言し合い、稲沢市観光まちづくりビジョンに位置付けられた共通の目標に向かって協働で取り組んでいくもの」というイメージで、回答を作成してみると良いのではないかと思います。

[委員長]

ただ今の提案に対し、市はどのように考えますか。

[事務局]

ありがとうございました。ご意見を踏まえた形で修正し、公表手続きを進めていければと思います。

[委員長]

「同じ目標を共有し」という文言を入れても良いのではないかと思います。パブリックコメン

卜の意見にもあるように、確かにアクションプランは総花的で「本当に全てやるのか」という印象を持ちますし、実際のところ市がいくら旗を振っても、市民が乗らなければ実行できない事業がたくさんあると思います。そうした意味で「決定」や「誘導」、「導引」ではなく、「目標を共有しながら協働していくこと」を市民にしっかりと伝える必要があると思いますので、この点を踏まえた文言に修正していただければと思います。

[委員]

資料2の4ページ下部に「3つの基本方針」の図があります。その中に「稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光メニューの造成」とありますが、稲沢市の魅力を体感するのは決して外から来た人だけではないと思います。市民自身も観光の取り組みを行うことによって魅力を体感することができ、その結果が「稲沢市に対する誇りや愛着」に繋がっていくと理解しています。これこそが「観光まちづくり」であると思っています。

本ビジョンは、単に「観光によって外から人を呼び込む」だけでなく、「市民と協働で観光事業に取り組んでいくことが、稲沢市のまちづくりに繋がっていく」というニュアンスで読み取れる内容になっていると思います。その意味で、先ほど委員長がおっしゃられた「観光・交流」という言葉は非常に分かりやすいと思います。

[委員長]

今話に出た「稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光メニューの造成」の「観光メニュー」の部分「観光・交流メニュー」としたり、同じ4ページに記載されている文言を「観光・交流を通じて、多様な分野や地域資源を再発掘！再認識！」に変えるなど、必要に応じて「観光」に「・交流」を加えていただきたいと思います。

[委員]

資料1の3ページ、No.5で「観光協会の強化策」のご意見をいただいておりますが、本ビジョンで掲げたアクションプランを進めていくためには、まずは「観光協会の組織の充実」が大前提になると思います。観光協会の現状を見ると、既存事業をこなすだけで精一杯であり、「新たにラボの取りまとめまで出来るのか」と個人的に不安を感じます。観光協会の機能強化策について、本ビジョンの中でももう少し踏み込んで記載したほうが良いのではないのでしょうか。

[委員長]

内容で言えば、資料2の12ページ、アクションプラン3「観光協会の組織・機能強化」に記載されています。ただ今の意見に対して、「現段階でどこまで書けるか」は様々な事情があると思いますが、事務局としてはいかがでしょうか。

[事務局]

貴重なご意見をありがとうございます。稲沢市の観光行政にとって「観光協会の組織・機能強化」は最大課題です。市としては観光協会を全面バックアップする体制で臨んでいます。今は観光協会からの自立的な立ち上げを待っている状況です。

[委員長]

観光協会としての考えはいかがでしょうか。

[副委員長]

市役所を始め、皆様から絶大な期待をされていることは私どもも感じています。観光協会として今日までそれなりの事業をこなしてきましたが、観光を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、従来どおりの事業を繰り返しているだけでは、期待に応えることができないことは重々承知しています。本ビジョンの策定という大きな節目を迎える中で、共に「新しい観光」を目指していきたいと思っています。本ビジョンの中で示された観光協会の役割は、現段階でベストな観光協会のあり方だと思いますので、これに沿えるように努力をしていきたいと考えます。

[委員長]

これからの観光協会はイベント屋ではなく、アクションプラン3「観光協会の組織・機能強化」にも書かれているとおり、しっかりとした誘客に結び付けるため、ターゲットを決めた戦略的なプロモーションを実行していく必要があります。そのために必要な組織づくりや人員配置について、「この場で確約した」ということを皆で共有しておきたいと思います。

その他にご意見はありますか。

[委員]

資料2の4ページ下部に記載されている「3つの基本方針」の図を始め、本ビジョンの中で「観光メニューの造成」という言葉が繰り返し出てきます。この「造成」という言葉に少し違和感があるのですが、適切な表現なのでしょうか。どのような意味合いがあるのでしょうか。

[事務局]

「造成」という言葉には建設用語のイメージもありますが、国・県の観光戦略等において「観光メニューの造成」という文言が使用されていることから、引用して整合性を取ったものです。

[委員長]

おそらく国・県の立ち位置としては、「造成」を「旅行商品の造成」というニュアンスで使っているのだと思います。委員のご意見は、「旅行商品だけでなく、交流機会等を作ることも含めたニュアンスで言葉を選択したほうが市民には伝わりやすいのではないか」という趣旨でしょうか。

[委員]

そのとおりです。

[委員長]

かっちりとした「旅行商品の造成」というニュアンスよりも、もう少し広い意味で「創造」や「創出」という言葉を使ったほうが稲沢市の観光のイメージには合っている気がします。

[事務局]

ご意見のとおり修正いたします。

[委員]

資料2の7ページの下から4行目に「ターゲッティング」とありますが、「ターゲティング」が正しい表記だと思います。小文字の「ッ」は必要ありませんので、修正をお願いします。

それから、5ページのstage4「基本戦略」の項目で、「戦略1」として「稲沢市の活性化につながり、一過性ではなく継続的に取り組む」とありますが、文章として熟れが悪い印象を受けます。もう少しすっきりした表現に出来ればと思います。

また、「戦略4」として「事業を実施した後、成果や改善等を検証することで次につなげる」とありますが、これは「事業を実施する際や事業を実施する前に評価指標を設定して取り組む」ということでしょうか。「この事業はどのような指標をもって、どこを見て成功と判断するのかをあらかじめ決めておく」という理解で良いでしょうか。

[事務局]

ご意見ありがとうございます。「戦略4」についてはお見込みのとおりで、適切な指標を設定しながら成果検証をしていくものです。「戦略1」の表現については、今この場で即答しかねます。

[委員長]

「戦略1」の表現は、「一過性ではなく、継続的な稲沢市の活性化に繋がるように」としてはどうでしょうか。

[委員]

おそらく「戦略1」の意味合いとしては、「稲沢市の活性化に繋がる事業を一過性ではなく継続的に取り組む」ということだと思います。「一過性ではなく継続的に取り組む」ということは、必ずその対象物があるはずですが、しかし、その対象物が明示されていないので、「何に取り組むのか」が分かりません。それが「稲沢市の活性化につながり」以降の文章の繋がりの悪さの原因になっていると思います。「稲沢市の活性化につながる事業を一過性ではなく継続的に取り組む」としたほうが、言葉としては自然な感じがします。

また、「戦略4」についてですが、36ページのPDCAサイクルの図を念頭に置いているのであれば、ここも表現を若干改めたほうが良いと思います。

それから、先ほど議論が交わされた「ラボにおける観光協会の役割」についてですが、「ファシリテーター」という言葉を使ってはどうかと思いました。「引っ張っていく」のではなく、「方向性を持って導いていく」という役どころであるのならば、「ファシリテーター」という言葉が相応しいと思います。新たなカタカナ言葉を使うため、用語解説にも加えていただく必要はありますが、一度ご検討をお願いします。

[委員長]

用語解説にも掲載するのであれば、「取りまとめ役」の代わりに「ファシリテーター」を使って

も良いのではないかと思います。

「戦略4」について、その他に何か入れたほうが良いと思うキープフレーズはありますか。

[委員]

「事業を実施した後」を取って、「成果を検証することで次の事業へつなげる」だけでも良いのではないのでしょうか。

[委員長]

「事業の成果を検証し、改善等を行うことで次につなげる」ではどうでしょうか。「事業の成果検証をしっかりとやる」というニュアンスの表現が入れば意図が伝わりますので、くどくならない形でまとめていただければと思います。

「戦略1」については、「継続的に何に取り組むか」が必要なので、「一過性ではなく、継続的に稲沢市の活性化につながる観光・交流に取り組む」でも良いかと思います。「活性化につながる観光に取り組む」というニュアンスの文言に修正をお願いします。

[事務局]

分かりました。

[委員]

資料1の3ページ、No.6の「市の考え方」ですが、この文章も先ほど意見が交わされた「ラボにおける観光協会の役割」のイメージとの間で整合性を図る必要があると思います。

[委員長]

「観光協会の役割」について、整合性があるように市の回答を修正したほうが良いということでしょうか。

[委員]

そうです。

[委員長]

分かりました。事務局は意見を踏まえて修正をお願いします。

少し面倒な話をしますが、本ビジョンの後半に掲載されている資料編はとてもしっかりと作られていますので、出来れば本文中の関係する部分に「資料編参照」として注釈を入れていただきたいと思います。パブリックコメントで意見を提出した方々は資料編までしっかりと読んでくれていますが、普通の人には資料編まで読まないものです。ちょっとした文言で良いので、「資料編に目を通してください」と誘うような参照注釈が本文中にあったら良いのではないかと思います。

「具体的にこの部分に入れてほしい」という意見ではないので、市として「資料編のこの部分にはぜひ目を通してほしい」と思う箇所に注釈を入れていただければと思います。いかがでしょうか。

[事務局]

どの程度の作業になるのか確認が必要になりますので、事務局で持ち帰らせていただけないでしょうか。

[委員長]

分かりました。「なぜこの成果指標を設けたのか」、「なぜこの目標数値となったのか」は、資料編を読んでいただければよく分かると思いますし、必要な箇所に「〇〇は資料編〇ページを参照」と入れることで、より資料編に目を通していただけたと思いますので、ご検討をお願いします。

その他にご意見はありませんか。他に無いようですので、委員の皆様にお諮りします。

協議事項（１）パブリックコメントの実施結果については、本日の会議で出た意見等を踏まえて「市の考え方」を一部修正した上で、公表に向けた準備を進めてもよろしいでしょうか。

<「異議無し」の声>

[委員長]

また、協議事項（２）稲沢市観光まちづくりビジョン（案）についても、本日の会議で出た意見等を踏まえて、策定に向けた最終調整を進めていくこととしてよろしいでしょうか。

<「異議無し」の声>

[委員長]

ご異議も無いようですので、事務局は本日委員の皆様からいただいた意見等を踏まえて、最終調整を進めていただくようお願いします。

（３）その他

[委員長]

次に協議事項（３）その他について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料３「稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議の開催状況について」に基づき説明】

= [事務局] =

【「(仮称) 稲沢市観光基本計画推進委員会の設置方針」について説明】

[委員長]

事務局からの説明が終わりました。「(仮称) 稲沢市観光基本計画推進委員会」とラボが両輪となって、「市民にどれだけ主体的に動いてもらえるか」を検証しながらアクションプランを推進していくこととなります。今後に向けて重要な鍵になる部分だと思います。

また、先ほど事務局から話があったとおり、3月10日（土）に開催される「稲沢市観光まちづくりビジョンキックオフシンポジウム」では、アクションプラン検討会議によるプロジェクト発表が予定されており、それに向けて現在様々な段取りが進められているところです。プロジェクトを企画した方々には「くれぐれも自分でやってください」と言っていたいただいて、必ず実践に繋がるように推進していただくようお願いします。

ご意見やご質問等はありませんか。ご意見も無いようですので、以上で本日の議事を終了いたします。本日は活発なご意見をありがとうございました。

3 その他

[事務局]

ありがとうございました。本日いただいたご意見を踏まえてビジョンの最終案を取りまとめ、次回の策定委員会でご提示いたしますので、よろしくをお願いします。

それでは、最後に事務局から事務連絡をさせていただきます。始めに次回の策定委員会、最終となる会議ですが、既にご案内のとおり2月14日（水）の午後2時から、会場は本日と同じく議員総会室で開催させていただきます。内容としては、ビジョン最終案の提示及び3月10日（土）に名古屋文理大学文化フォーラム小ホールで開催するキックオフシンポジウムの内容について、委員の皆様にご審議を賜りたいと思いますので、よろしくをお願いします。

次に、「第10回愛知県観光交流サミットの開催」についてです。第9回のサミットが先週1月25日と26日の2日間にかけて半田市で開催されたところですが、今回はここ稲沢市で開催されることが決定しております。稲沢市が市制60周年を迎えることに加え、稲沢市観光まちづくりビジョンがスタートする記念すべき年となるため、開催を誘致したものです。開催の日程及び会場については、平成30年11月29日（木）、名古屋文理大学文化フォーラムを予定しています。サミットの成功に向けて、観光関係組織・団体、観光事業者や経済団体、地域の皆様に多くのご支援とご協力を賜りたいと考えています。どうぞよろしくをお願いします。

以上をもちまして、会議を閉会させていただきます。本日は長時間にわたり慎重審議をいただき、誠にありがとうございました。

以上